

令和4年度

不動中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

一人一人が輝き、自尊感情を高めるために、主体的・対話的な深い学びを実現するための授業改善から、確かな学力を育成する。

- ①「基礎的・基本的な知識・技能の定着」
- ②「家庭学習習慣の確立」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 篠原 明子	委員	安西政和(校長)	島田佳美(教頭)
		吉田則子(教務・1年主任)	
		清水英伸(3年主任)	佐藤康徳(2年主任)
		矢部恵子(特別支援教育コーディネーター)	

校長

安西 政和

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員による授業改善のための振り返る等、さまざまな機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業や朝のモジュール学習においては、与えられた課題に対して、こつこつと真面目に取り組むことができる。 ●学習に対して受動的であり、分からないことをそのままにする傾向があり定着につなげていない生徒がいる。	・授業等において、何を学ぶのかという目的意識を持って学習に取り組むことができる。 ・自分の考えを整理して記述したり発表したりすることができ、他者の考えを尊重して学ぶことができる。	①スモールステップでの小テストの実施と小テストに向けて、生徒への支援と事後指導の実施 ②授業ノートの確認とノート指導の実践 ③モジュール学習を取り入れた朝学習の実施		・3年生においてはおおむね目標を達成できた。1、2年生では40～50%の生徒が目標を達成できた。 ・小テストの正答率では、3年生が7割程度、1、2年生が6割程度達成できた。	・授業では、特に基礎・基本的な知識の習得や定着のため反復学習を重視し、基本的な知識や技能を活用した学習課題を設定し、活用力を養う。 ・モジュール学習での成果の体得や、実施方法の工夫・改善を図る。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業ノートを真面目にとり、学習課題について、知識技能を活用しようと前向きに取り組むことができる。 ●学習課題に対して、思考・判断し、筋道をたてて文章を書いたり発表したりすることに苦手意識を持つ生徒が多い。	・学習課題に対して、知識技能を活用させたり他者の意見を参考にしながら、根拠を示しながら、自分の考えを表現することができる。	①アクティブラーニングの手法を取り入れ、タブレットを活用した授業を行う中で、自力解決の時間の確保や話し合い、発表の場を設ける。 ②各教科において、文章を書く時間を増やし、条件に合った表現力を身につけさせる。		・学習課題にはしっかりと取り組む生徒が多いが、「自分の考えを説明したり文章に書いたりするのが得意だ」(生徒アンケート)とする生徒が1、2年生で60%で意欲のある生徒が多いが、3年生では3割と苦手意識が高いことが分かった。	・基礎・基本の定着に重点を置いたうえで、思考力・判断力・表現力を伸ばす場面を設定した授業づくりに努める。 ・ICT等を活用し、自分の考えを整理しやすいよう思考ツールを提示し、説明や発表しやすい支援をしていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○集団生活のルールを守って生活できる。朝学習に静かに取り組み、チャイムで授業を開始することができる。 ●睡眠不足などの生活リズムの乱れから授業に集中出来ない生徒や宿題等の提出物の締切が守れない生徒がおり、家庭学習において、主体的・継続的に取り組めていない生徒がいる。	・授業の準備を整え、チャイムで授業が開始でき、何を学ぶか目的意識を持って粘り強く取り組むことができる。 ・将来設計のビジョンを描きながら、自ら課題を見つけ、主体的に家庭学習に取り組むことができる。	①授業開始時に、全教科において、学習のめあてを明示するとともに、学習の振り返りを実践し、生徒に学習課題の自覚をさせる。 ②家庭学習の手引きを作成し、各教室に宿題一覧ボードを置き、教員と生徒が情報共有しながら、目的意識を持った家庭学習につなげる。		・9割近くの生徒がチャイムで授業が開始することができた。全ての教員がチャイムで授業を開始できた。 ・1年生では約7割、2・3年生では全ての生徒が、授業での目当てを意識できた。「授業では何を学んだか実感できる」(生徒アンケート)を9割の生徒が肯定的に捉えている。	・生徒の発達段階に配慮し、授業での取り組みやすい課題設定や形態等を工夫して、説明や発表する場面を増やす。 ・基礎・基本の定着のため、保護者とも連携し、家庭学習時間の確保と習慣化を図る。

令和4年度 学力向上ロードマップ

